

別記様式(第5条関係)

会 議 録

|                 |              |   |
|-----------------|--------------|---|
| 会 議 の 名 称       |              | 令和8年福津市教育委員会第1回臨時会  |
| 開 催 日 時         |              | 令和8年3月5日(木) 午後 5時00分から<br>午後 5時37分まで  |
| 開 催 場 所         |              | 福津市立図書館 2階研修室1  |
| 委 員 名           |              | (1) 出席委員 薄教育長、農崎委員、田中委員、<br>村井委員、森委員<br>(2) 欠席委員 なし   |
| 所 管 課 職 員 職 氏 名 |              | 宮原教育部長、原尻教育部理事兼主幹指導主事、佐々木教育総務課長、志賀新設小学校準備室長、石井学校教育課長、芹野郷育推進課長、芹野文化財課長、鶴口主幹兼指導主事、内兼久総務企画係長、古沢主事                                  |
| 会 議             | 議 題<br>(内 容) | ・日程第 1 開会の宣言<br>・日程第 2 会議録署名委員の指名について<br>・日程第 3 議案第4号 令和8年度福津市学校教育ドリームプランの制定について<br>・日程第 4 諸報告<br>・教職員の異動内示について<br>・日程第 5 閉会の宣言 |
|                 | 公開・非公開の別     | <input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開                               |
|                 | 非公開の理由       | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に該当するため。   |
|                 | 傍聴者の数        | 0名  |
|                 | 資料の名称        |   |
| 会議録の作成方針        |              | <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録<br><input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録<br><input type="checkbox"/> 要点記録  |
| 会議録署名委員         |              | 薄教育長<br>農崎委員  |

|   |  |
|---|--|
| その他の必要事項  |  |
| 審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）   |  |
| 薄教育長：本日は、傍聴の方はいないため、このまま議事を進める。   |  |
| 日程第1 開会の宣言  |  |
| 薄教育長：構成委員5名のうち、ただいまの出席数は5名で、定足数に達し、委員会は成立するため、令和8年福津市教育委員会第1回臨時会を開会する。直ちに会議を開く。<br>本日の議事日程は、お手元に配付のとおり。 |  |
| 日程第2 会議録署名委員の指名について   |  |
| 薄教育長：福津市教育委員会会議規則第17条の規定に基づき、会議録は薄と農崎委員で確認、署名することとする。   |  |
| 日程第3 議案第4号 令和8年度福津市学校教育ドリームプランの制定について   |  |
| 薄教育長：事務局に説明を求める。  |  |
| （石井課長が議案第4号、令和8年度福津市学校教育ドリームプランの制定について、会議資料を用いて説明）  |  |
| （原尻理事が別紙を用いて説明）   |  |
| 薄教育長：本案に対する質疑を受ける。  |  |
| 村井委員：5ページの指標について、令和7年度の実績より、令和8年度の目標値の方が低いのはなぜか。  |  |
| 原尻理事：これまでも、あえて前年より高い目標値ではなく、一定の割合を目標として、取り組んできた。令和7年度では、目標値を超える結果が出ている。                                 |  |
| 目標値を上げて90%、100%を目指すという考え方もあると思うが、100%になることは中々ないということもあり、維持するという意味も含め、ここでは目標値を80%以上という恒常的な目標で示している。      |  |
| 村井委員：6ページのいじめの認知率の目標値について、前年度を上回るとしているのはなぜか。  |  |
| 原尻理事：いじめが起きたことを認知できないままになることが何よりしてはいけないことなので、いじめの認知率について、100%を目指さないといけないという考え方もあると思う。                   |  |
| いじめの発生率であれば減らしていかないとはいけませんが、発生をゼロにすることは、現実的にあり得ないことだろうと考える。   |  |
| 起きたものをいかに早く対処するかという意味で、認知率につ  |  |

いて前年度を上回るという目標にしている。

田中委員：前年度を上回るという目標であると、上回れば良いのか、となり、誤解を招きそうではないかと思う。

見逃さないことが大事なので、目標を100%とするべきではないか。

原尻理事：令和7年度の小学校の実績の18.73%に対し、目標を20%とすることは抵抗があるが、認知率は上げていかないといけないので、目標は、前年度を上回るとしている。

森委員：目標であれば、100%とするのが当たり前であると思う。

今回は、目標ではなく指標としてあり、指標は、手が届く、頑張りが利くということが狙いである。

指標であれば、20%とするのが通常かと思うが、それは抵抗があるので、前年度を上回るとすることが多い。

指標は、頑張る目標であり、最初から100%とすることは、先生方のモチベーションを上げられるような指標ではない。

気になる気持ちもわかるが、指標を20%とするのは、あまりにも低いのではないかとなくなってしまうため、この前年度を上回るという表現しかないのではないかと思う。

田中委員：認知率を上げるではなく、非認知率を下げるとするのはどうか。

森委員：18%という実績は、かなり低いと思う。

校長会で、しっかり伝えてもらわないといけない。

まずトップである現場の校長が共通理解をし、認知率を上げていくということが大事であると思う。

田中委員：実績が、あまりにも低いので、目標を前年度を上回るとしてよいのか。

大事なところであるので、力を入れていることがわかるようにするためにも、50%などにした方がよいのではないか。

森委員：教育委員会として意図的に50%とすると、先生方は相当頑張らないといけないので、それは覚悟の上でとなる。

そのような説明を学校へし、学校側も真剣になるかどうかというところで、難しいところである。

当事者のモチベーションが上がるギリギリのところを表現する必要がある。

令和6年度の実績はどうか。

令和6年度も17%程度で、令和7年度も同じくらいであると、それは指標を50%くらいにあげて、もっと頑張ってもらわないといけない。

令和6年度からの伸び率によって書き方は変わると思う。

50%とするのは中々厳しいと思う。

原尻理事：令和6年度は、小学校で7.4%であった。

森委員：認知率は上がっており、頑張っていると思う。

薄教育長：この実績の数値は、管内教育長会の中では低い数値ではない

が、ただ低いことは確かである。

なので、さらに意欲を持てるような書き方をしていきたいと考える。

森委員：いじめの認知率としては、低いが、自己肯定感など他は色々上がっている。

例えば、大規模である福間南小学校や福間小学校のデータでは、幸せであることなどたくさん書いてあるのに、親和性のあるこの認知率はなぜこんなに低いのかと疑問である。

原尻理事：認知率の捉え方、タイミングによるところはある。

最初の段階で認知できていなかったものを拾い上げると18%となる。

薄教育長：市町間の差があるように、市内の学校間の差がある。

大規模校が低いかというとそうではなく逆である。

管理職等のモチベーションをあげるためにも、指標を示すことと、併せて校長会等で共通理解を図り、さらに上げていきたいと考える。

森委員：令和6年度の約7%から、約10%上がっている。

さらに上げたいということであれば、前年度を上回るではなく50%などに変えた方が良いのではないかとも思うので、今後、検討した方がよいだろう。

原尻理事：これまでの経緯も踏まえ、どちらがよいか検討したいと考える。

田中委員：ここは大事ということを経済委員会から現場の管理職へ伝わるようにし、教育委員会もそこにしっかり目を向けていることを周知できるような表現であるとよいかと思う。

森委員：施策4について、昨年までは「郷育カレッジと学校との連携」とあったが、今年は「郷づくり（郷育カレッジ）と学校との連携」と大きく変わっている。

当初は、郷育カレッジと繋ごうということでスタートしたが、郷育カレッジだけに限らないことであるので、本来の形に戻すため、郷づくりと学校との連携と変更されている。

郷づくりの1つとして、郷育カレッジがあり、他にも色々取り組みがある。

今までは、連携というのが、郷育カレッジと連携すればいいという発想で進められており、今回、報告会で、福間東中学校区の課題として見守り活動の後任不足がでたときに、まだその考え方となっていることに気が付いた。

そうではなく、学校は、郷づくりと連携しなければいけない。

郷育カレッジはもう当たり前のことになっているので、例えば、郷づくりの安心安全部会には見守りが入っていることなど、それ以外のこととも連携し、ネットワークがとても特色に繋がるので、来年は特にそこを広げていただきたい。

特色あるふるさと学習のカリキュラムは作っているが、実働部

分が難しくなり、現実には、見守りの後任がいないなどとなっている。

なので、郷づくりで温度差があったり、簡単ではないと思うが、当初からすでに20年以上経っており、福津は、これが一番売りであるのに、その辺りはまだ改善が必要ではないかと思う。

再来年は、新しい学習指導要領により、教育委員会や文部科学省も移行期間に入ってくる。

そこに向かうためのあと1年であるので、今回、このように単なる入れ替えの変更ではなく本来の形に戻していることも踏まえ、ぜひ来年はそういう連携プレーの繋がりを進めていただきたい。

学校ごとに関係性が違うので、そこは気をつけて進めなければならない。

神興では、あまり連携する関係ではなかったが、学校の中にそのような部屋を作ると、非常に人間関係が良くなった。

そういうこともあるので、一緒にネットワーク作りを強化していき、今回から、本来の形に戻っていくといいなと思う。

村井委員：郷づくりについて、上西郷の郷づくりで活動しており、防犯も行っている。

ただ、部会長などから、小学校のPTAも同じ様に動いているところもあり、そこを整理できないだろうか、人数が少ない中なので、ここは郷づくりで、ここはPTAでと分担できないかとなっている。

見守り隊もあるので、そのような整理の部分を今年はずい進めていこうとしている。

森委員：そのようなことを学校運営協議会でしていただけるとさらに良いと思う。

今までの学校運営協議会では、学校の教育課題は多いが、地域の教育課題を議論しているところは、全国的にもあまりない。

来年、文部科学省から、学校、地域、家庭の課題を第一義にするよう出てくると思う。

その3者がいれば、それぞれ意見を言うことができ、本来の理想的な形である。

薄教育長：他にないか。

無いようなので、質疑を終結する。

これより、議案第4号を採決する。

議案第4号は、原案のとおり可決することに賛成の方は、挙手願う。

(賛成多数)

賛成多数である。よって、日程第3、議案第4号、令和8年度福津市学校教育ドリームプランの制定については、原案のとおり可決された。

日程第4 諸報告

薄教育長：諸報告、教職員の異動内示については、人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、審議内容を非公開にすることを発議する。

審議内容を非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(賛成多数)

賛成多数である。

この案件については審議内容を公開しないことに決定する。

【非公開部分ここから】

教職員の異動内示について



【非公開部分ここまで】

日程第4 閉会宣言

薄教育長：以上で本日予定していた議事日程は全て終了した。

これで令和8年福津市教育委員会第1回臨時会を閉会する。